

第2回アイヌアートモニュメント設置検討会議

1 第1回会議の概要

(1) 事業の進め方について

- ・モニュメント設置検討会議では、市の提案に対して各委員から助言や意見を受ける。また、一部の委員に対し 25 年度設置の制作グループへの指導・助言、監修的な役割を依頼する。(札幌市の考え)
- ・アイヌ民族の若者の意見をしっかり聞くべき。(委員意見)

(2) コンセプトについて

- ・アイヌ民族はもういないという理解の人々がまだ多い状況にあり、アイヌ民族を象徴することが、過去のことでなく、アイヌ民族が今も存在し、これからみんなと共生していくのだということを分かってもらうことが一番大切。(委員意見)
- ・これから若い世代がどんどん伸びていくので、未来に向かって眺めていくという観点から、ある程度抽象的な要素を入れ、そのモニュメントが見る人に対し、考えさせるところがあってもいい。(委員意見)
- ・動物たちは、アイヌ民族にとって大事な神々である。自然とか動物という要素は入れるべき(委員意見)
- ・一例としてイクパスイという儀礼具をモチーフにして制作することの意義や具象的なブロンズの人物像等は分かりやすさがある。(委員意見)

(3) 設置場所について

- ・設置場所の空間とモニュメントとのバランスの重要性、モニュメント周辺の整備にも配慮する必要がある。(委員意見)

2 今回の会議での検討テーマ及び市の考え方

(1) コンセプト

① 目的(何のために)

札幌市アイヌ施策推進計画にアイヌアートモニュメントの設置が位置づけられている。モニュメントの制作設置により、多文化との共生やアイヌ民族に関する市民理解を促進し、アイヌ民族の誇りが尊重されるまちを実現することを目的とする。

② 作品イメージ(どのようなものを)

- ア) 民族を象徴するものであること(例: 動物など自然に関するもの、イクパスイなどの儀礼具、アイヌ文様など)
- イ) アイヌ文化に基礎を置きつつ、伝統に限定されないアートの表現とする
- ウ) 作品の大きさや重量については、設置場所における諸条件を考慮しながら決定

(2) 素材の検討

素材	主な長所	主な短所	屋外	屋内
木	・アイヌ文化の伝統的素材である	・耐久性にやや乏しい ・適宜、メンテナンスが必要	△	○
金属	・耐久性に優れる ・比較的造形加工しやすい	・重量がかさみ設置場所が限定される場合がある	○	○
布	・アイヌ文化の伝統的素材である	・耐久性に乏しい	×	○
石	・耐久性に優れる	・重量がかさみ設置場所が限定される場合がある ・高価な素材もある	○	○
FRP など 化学素材	・比較的造形加工しやすい	・自然素材ではない	○	○

- ・耐久性を考慮し金属を基本とするが、設置環境によっては、アイヌ文化の伝統的素材である木や布という選択もある。

(3) 設置場所(どこに)

視点	中心部	郊外
【来訪者数】 ・多数が望ましい。		
【周辺空間とのバランス】 ・既存のコンセプトをもとに樹木や彫刻等が配置されており、整合を図る必要がある。		
【文化についての理解度】 ・モニュメント一つでは周辺環境に埋没する可能性あり ・近くに関連施設や展示があることで理解は深まる。		
【制作の自由度】 ・設置場所の空間に配慮して、大きさや重量に制約がある		
【設置後の維持・発展】 ・設置後も長く関心を持ってもらえるよう仕掛けが必要。		

(4) 制作者(だれが)

① アイヌ民族の参加

- ・アイヌ民族の造形作家やアーティストを中心にした制作グループを設置。
- ・未来志向のモニュメントを制作するため、制作グループにはアイヌ民族をはじめとする若者たちにも参加してもらう。

(5) 制作手法(どのようにして)

① ワークショップ方式

- ・アイヌ民族の造形作家と若者たちが共同で芸術性の高い作品を作り上げていくワークショップ方式を採用する。制作グループのコーディネーター役は、ワークショップ経験のある造形作家に依頼する。

② デザイン制作

- ・制作グループがデザイン制作を担当する。さらに事業関係者により模型の制作を行う。

③ 作品制作

- ・耐久性や安全面等の配慮から、模型等をベースに造形事業者による制作を基本とする。

(6) 設置時期、期間(いつ)

- ・平成 25 年度中にデザイン案を制作し、平成 26 年度に制作設置予定。
- ・常設を基本とする。なお、期間限定で多くの来訪者が見ることのできる中心部に設置し、その後、アイヌ文化やアートに関連の深い場所に移設するという選択もある。